

年間特集

「金」の後は「彗」の年？

～みせて！パンスターズ彗星&アイソン彗星～

縣 秀彦（国立天文台）ほか「パンスターズ彗星を見つけよう」実行委員会

1. はじめに

2012 年を表す漢字一字は「金」。オリンピックイヤーとしての盛り上がりのほか、国民の 2 割以上が目撃したという金環日食、さらに金星太陽面通過等の天文イヤーであったことも「金」が選ばれた理由のようです。天文・宇宙に興味を持つきっかけとして日食・月食や流星群、彗星といった天文現象は重要な役割をはたしてきました。特に 1996 年の百武彗星、1997 年のヘール・ボップ彗星など肉眼で見られる大彗星の出現は、古今東西、天文・宇宙への興味・関心を広げる好機でした。

2013 年 3 月のパンスターズ彗星の接近、11 月末のアイソン彗星の近日点通過を天文ファンに限らず、広く国民に関心を寄せてもらうことを目的に全国各地の公開天文台や科学館、各学校等で積極的な情報提供や観望会などのイベントを開催してはいかがでしょうか。

2. 明るくなるか？パンスターズとアイソン

2013 年の天文現象でもっとも注目されているパンスターズとアイソンという二つの彗星。日本におけるパンスターズ彗星の見頃は 3 月中旬から下旬。夕方、西から北西の低空で 0 等級の明るさになる可能性があります。一方、アイソン彗星は 11 月末から 12 月上旬が見頃。夜明け前、東の低空で、もっとも輝くときはマイナス 13 等級という満月なみの明るさになると予想されています。ただし、彗星のような拡散状の天体の明るさを等級で表現することは危険で、あくまでも積分量であることに注意しましょう。アイソン彗星は尾も発達し、歴史的な大彗星となるかもしれな

いと期待されています。しかし、彗星はみな、とても個性的な天体で、太陽に近づいてみないと正直、どこまで明るくなるか、尾が発達するかは専門家でも分かりません。過去に予想が外れたケースは多々あります。ぜひ、直前の情報に注目して観測やイベントの準備をお願いします。近々のパンスターズ彗星については、望遠鏡か双眼鏡を用いないと見つけれないかもしれないことを前提に準備されたほうがよいでしょう（予想が外れてとても明るく見えることを期待したいですが・・・）。

3. 参加型ウェブキャンペーン

普段、夜空を見上げることがない市民層や児童・生徒たちに、実際の夜空でパンスターズ彗星を見つけてもらい、感想や撮影写真をウェブサイトに掲載していただくことで、天文学への興味・関心を広げてもらうことと、いつどこで彗星がよく見えるかという情報共有を目的に、(仮称)「パンスターズ彗星を見つけよう」キャンペーンを有志で準備中です。1 月 7 日現在、日本天文協議会に主催を依頼中で、日本天文協議会か国立天文台のどちらかが主催で実施される見込みです。

国立天文台では、日本プラネタリウム協議会や日本公開天文台協会ほかのご協力の下、「夏の夜、流れ星を数えよう」キャンペーン[1]のように日月食や彗星、流星群の参加型ウェブキャンペーンを実施してきました。今年も 8 月にはペルセウス座流星群の観察を呼び掛けるキャンペーンを実施予定です。

一方、日本天文協議会では、2012 年 9 月から 11 月まで、映画「天地明察」制作委員

会他との協力の下、参加型ウェブイベント「北極星を見つけよう」キャンペーンを協議会下に『「北極星を見つけよう」実行委員会』を組織し実施しました[2]。準備不足で十分な活動が展開されたとは言い難いものの、国立天文台三鷹や全国各地で「北極星を見つけよう」キャンペーンと連動した特別展などのイベントも開催され、暦作りや位置天文学、天文学史への興味・関心を喚起することの一助となりました。

2013年の2つの彗星では、この仕組みをさらに発展・強化させて、天文教育普及研究会をはじめとする日本の天文普及関係組織・団体の協力関係をさらに強化していきたいと希望しています。日本天文協議会（海部宣男会長）は、世界天文年2009の成果を引き継ぎ、日本の天文学研究・教育・普及・アマチュア活動が一体となって、天文と科学の理解を社会に広げるための合同組織（2010年9月9日発足）で、構成メンバーは日本天文学会／国立天文台(NAOJ)／宇宙航空研究開発機構(JAXA)／天文教育普及研究会／日本プラネタリウム協議会／日本公開天文台協会／日本天文愛好者連絡会／星空を守る会の8団体・機関です。今回のキャンペーンでは、上記、日本天文協議会メンバーのほか望遠鏡メーカーや天文メディアほか関連企業・団体に協力・協賛を依頼中です。

4. パンスタース彗星キャンペーンへ参加を

検討中の内容ですが、ウェブ参加型の誰でも極めて気軽に参加できるものとする予定です。参加希望者は（仮称）「パンスタース彗星を見つけよう」キャンペーン専用サーバーにアクセスし、ウェブ上には、パンスタース彗星の見つけ方、観察方法、彗星物理の紹介などの他、彗星に関わる身近なクイズやプレゼントの提供など親しみやすい情報を載せたいと思います。参加者は、ウェブの情報を参考

にパンスタース彗星を見つけて観察し、ウェブのフォームに、いっどこで、彗星が見えたか見えなかったか、見た感想、写真のアップなどを入力し、facebookやツイッターなどのSNSとも連動させる予定です。なお、クイズやプレゼントは個人情報の保護と作業削減のため、ウェブ上からダウンロードできる内容に留め、例えば、組み立て式パンスタース彗星軌道模型などのダウンロードを検討中です。

5. おわりに

きわめてタイトなスケジュールで準備中ですが、用意でき次第、tenkyo メーリングリスト等でご連絡いたします。キャンペーンの期間は2013年3月1日～4月30日の予定です。また、今回の経験を生かし、アイソン彗星対応への準備も早めに取り掛かりたいと思います。ぜひ、皆様からの忌憚のないご意見、そしてご協力のほどよろしくお願いします。天文施設（科学館、プラネタリウム館、公開天文台等）や各学校で実施される彗星観察会などのイベントに本キャンペーンをご利用いただければ幸いです。

実行委員（あいうえお順）

縣秀彦、石崎昌春（国立天文台）、井上毅（明石市立天文科学館、日本公開天文台協会）、大川拓也（フリー編集者）、大西浩次（天文教育普及研究会）、上山治貴（(株)アストロアーツ）、高田裕行（国立天文台）、都築泰久（(株)ピクセン）、広橋勝（合同会社スターライトスタジオ）、本間隆幸（日本プラネタリウム協議会）、渡部潤一（国立天文台）ほか募集中。

URL

- [1] <http://naojcamp.nao.ac.jp/phenomena/20120810-perseid/>
- [2] <http://hokkyoku-sei.net/>

縣 秀彦